

一般質問

(一般質問は4面・5面・7面にも掲載)



住みやすく安心できる市民生活を

自民・新政 相原 學

一 戸川土地区画整理事業について

二 コロナ禍における上下水道事業経営について

問 区画整理事業に反対する戸川住みよいまちづくりを考える会は、矢坪沢の水路整備は鉄砲水の被害を招く危険性があるなど、新たに反対看板を通学路に設置した。その看板は子どもたちに不安を抱かせる内容であるが、水路整備で災害の危険性は高まるのか。

答 矢坪沢は「土砂流出防備保安林」で、樹木の根と地面を覆う落ち葉や下草などで土砂の流出を防ぐものである。現況などを総合的に考慮し、土砂災害から地域の安全を守るため、都市計画道路と合わせて整備することで、災害の防止・軽減が図られると考える。

要望 この区画整理事業は、雇用の創出や定住の促進、地域経済の活性化といった本市の最重要施策であり、企業誘致が実現できるような支援などに市民とともに取り組んでほしい。



早急に矢坪沢の水路整備を(写真は、現在の矢坪沢の様子)

コロナ禍の中いじめを考える児童生徒委員会を開催すべき

日本共産党 佐藤 文昭

一 福祉施策について

二 教育施策について

問 介護保険法の改正で、要支援1と2の訪問介護と通所介護が保険給付から外されたため、高齢者の買物や通院が大変になったが、移動支援の取り組みはどのようか。

答 認定ドライバー養成研修を毎年実施している。また、買物支援は柘窪と大根・鶴巻地区で開始し、菩提地区で検討中である。今後は、さらに地域の取り組みを支援する。

問 貧困に苦しむひとり親世帯へ市独自の給付をすべきだがどうか。

答 有効な相談体制を検討する。



田原ふるさと公園周辺の一体的な環境整備により表丹沢のさらなる魅力向上を

創和会 横溝 泰世

一 給水管の適正な維持管理について

二 田原ふるさと公園周辺の整備について

問 個別に引き込まれている給水管の漏水修繕は、高額の市民負担となっており、修繕が進まず、大切な水の損失から収益の悪化につながるなどの課題があるが、市民負担に対する考えはどうか。

答 条例により、給水管の修繕は市民負担が原則だが、道路上で突発的に発生する漏水などは、二次災害を防止することからも公費で対応している。市民負担を軽減できるように公費など制度設計を工夫し、修繕対応を増やしていく。



田原ふるさと公園

問 田原ふるさと公園が開園して20年の節目を迎えた。もとより東地区は、自然豊かな環境とともに文化財の宝庫とも言われ、田原ふるさと公園を拠点に位置づけて、一体的な環境整備を図る必要があるが、具体的な取り組みはどうか。

答 これまでの成果を基本に幅広く地域住民と連携し、それぞれが持つスキルを生かして、運営体制の強化につなげていきたい。また、これまでの活動は、地域の活性化にも寄与しているため表丹沢の魅力向上に向けた取り組みを図る。ほか、低所得者や障がい者などが安心して暮らせる住宅確保について質問した。



とちくほ買い物クラブ

問 いじめ問題の対応は児童・生徒の主体的な取り組みが重要であるが、その取り組み状況はどうか。

答 コロナ禍において、いじめを考える児童生徒委員会は例年の形での取り組みを中止しているが、令和2年11月に形を変えて実施することを計画している。

ほか、公共交通施策の改善について質問した。



風水害から高齢者の命を守る体制の強化を

公明党 山下 博己

一 SDGsの取り組みについて

二 災害時の避難体制について

問 現在策定中の新総合計画(仮称)へSDGsをどのように反映させ、政策に結び付けるかは極めて重要となるが、考えはどうか。

答 SDGsを市民に分かりやすく示すとともに、各施策との関係が分るよう分けるようにしていく。

問 SDGsロゴマークの業務上の可視化は重要と考えるがどうか。

答 可視化することで、職員の意識付けや周知のほか、部局の垣根を越えた連携も期待できる。



コロナ禍においても「まちづくり」に本市の優位性を十分に発揮せよ

創和会 谷 和雄

一 住宅環境について

問 令和2年6月に開設された空き家バンクの状況はどうか。

答 開設以降3カ月で23件の登録があり、そのうち3件が成約した。



ICT推進で孤立化を防ぎ新たな社会の構築を目指せ

公明党 横山むらさき

一 新型コロナウィルス対策について

問 今後、コロナ関連死を招かぬ取り組みが必要である。外出自粛の影響で社会との関わりが減ったが①高齢者のフレイル予防として



妊産婦への支援の充実を

問 新たなICT活用でデジタル格差を埋める試みはどうか。②妊産婦の孤立を防ぐ施策はどうか。また、③感染症防止策を講じた複合災害への対応が求められるが、風水害時の避難所運営委員の体制や避難所運営についての周知はどうか。

答 ①高齢者の健康維持のため外出や人とつながり会話することは重要である。スマートフォンを活用した講座などの地域の取り組みを参考に、フレイル予防を検討する。②不安を抱える妊産婦の相談体制として、オンライン保健指導を導入し、支援の充実を図る。③一時的避難の場合は、市職員が対応する。また、避難所での過ごし方などの動画を公開している。



新総合計画(仮称)にSDGsの理念の反映を



首都圏からの移住の受け皿に(写真は、広々とした上地区の様子)

問 資源物である牛乳パックの焼却処理の問題が起きているが、本市の小・中学校における給食の牛乳パックの処理方法はどのようか。

答 各教室でリサイクルに必要な洗浄や乾燥処理を行い、リサイクル業者に回収を依頼している。

要望 自分たちが排出した牛乳パックを学校で使用してほしい。

問 農業生産工程管理(GAP)の取り組み状況はどうか。

答 GAPの取り組みは農産物の安全性向上につながる。重要性のPRに努め、導入拡大に取り組む。

問 景観まちづくりの現状と今後の取り組みはどうか。

答 良好な景観の保全形成に努めているが、時代に合った制度を検討し魅力ある景観づくりを目指す。

要望 魅力ある景観は市民の誇りや愛着につながる。市内各所に足を運び魅力を再発見し、新たな景観まちづくりに取り組んでほしい。

三 今後の農業振興について

問 農業生産工程管理(GAP)の取り組み状況はどうか。

答 GAPの取り組みは農産物の安全性向上につながる。重要性のPRに努め、導入拡大に取り組む。